

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 6年 3月 20日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470205992		
法人名	有限会社 ピースフル		
事業所名	グループホーム 海老園はなみずき		
所在地	広島市佐伯区海老園1丁目7-21 (電話) 082-924-7766		
自己評価作成日	令和6年2月2日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=3470205992-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和6年3月1日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

会社理念の「安心・安全・楽しむ」を元にご利用者の皆様と楽しく生活をしております。ピースフルは「普通に生活できる空間」を目指しています。
日々の買い物、調理、外出、趣味等お一人おひとりの生活歴の中から興味のある事を探し取り組み一人ひとりが役割を持てるように生活リハビリを中心に、起きたい時に起き、寝たい時に眠り、食べたい時に食べる、遊びたい時に遊ぶ等普通の欲求が実現できるよう取り組んでおります。

※新型コロナウイルス感染症の状況次第では面会等制限を行う場合があります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

「安心・安全・楽しむ」という理念をもとに日々の買い物や食事、外出など普段の日常を利用者の生活歴や得意なこと、興味のあることなど一人ひとりの特徴を把握し、料理や食事準備、掃除、洗濯などできることに合わせ役割ややりがいを持てるように支援している。起床や就寝、食事なども生活習慣やその時の様子を鑑み、利用者個々のペースに合わせて行える幅のあるケアを実施しており、利用者主体の生活を実現している。近隣には商店や小学校、役所などがあり利便性も良く、買い物にも店員とも顔馴染みとなっている。行きつけの美容院や病院へ通うなど人との交流や繋がり、馴染みの継続ができるよう支援している。食事も3食手作りで提供し、その日に献立を考え作り利用者の意向を反映しやすいことや、行事食、調理レクなど毎月行事やイベントも趣向を凝らして実施しており食や生活の楽しみとなっている。

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「普通の生活」を目標とし、買い物、理美容、通院、娯楽、趣味、等地域資源を活用し地域の中で楽しく生活できるよう心がけています。※新型コロナウイルス以前の状態にはまだ戻っておりません。	「利用者の普通の生活」を念頭に達成のためには安心、安全、楽しむの3つの要素が重要と意識し、利用者の日々の様子や状態の把握に努めている。そこから料理や掃除など日常生活の中で利用者ができることを行えるよう支援し、地域との関わりや楽しみが感じられる生活へ繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	買い物等必要に応じ利用者と出かけ、地域の方とのふれあいの場を持てるよう心がけておりますが、感染症以降地域とのかかわりが少なくなっています。	コロナ禍の情勢下で頻度は減っているが、近隣のスーパーやパン屋へ買い物に行き店の方とも馴染みとなり、地域の催しやとんどなどに参加している。ボランティアにて車椅子の修理や楽器の演奏をして頂くなど交流を持っている。地域清掃に参加するなど地域の一員として活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症サポーター養成講座を不定期ではありますが開催し認知症の啓発や支援方法を伝えられるよう努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス以降照会での開催が続いております。感染状況をみながら対面での再会を随時検討しています。	感染症対策にて書面での開催を継続している。事前に各関係者に資料を送付し、返信用封筒にて意見を得るようにしている。地域推進委員からの認知症カフェの情報や、通年他施設相互の参加にて実施をしており、お互いの取り組みを参考としたり相談など意見交換の機会にもなっている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	認知症アドバイザーの活動を通し、定期的に市、区役所の担当の方との活動を行っており協力関係を築いています。	事故報告など報告書類の持参や、介護認定更新申請にて窓口足を運び顔の見える関係作りをしている。生活保護の支援では生活課と綿密に関わり実施している。地域包括支援センターからは認知症カフェや研修の案内がある。区域のグループホームのネットワークがあり参加している。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	夜間（17：30以降）は人員減少のため玄関の施錠は行わないが、日中は施錠しております。また、定期的に、委員会、勉強会等を通し職員全体で身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいます。	事業所単独にて身体拘束廃止委員会を実施している。勉強会も毎年行い身体拘束について理解を深めている。ケアでの考慮する事案など職員の報告に適宜検討を行い、身体拘束のないケアの実践に結びついている。スピーチロック（言葉による拘束）も意識を持ち職員が互いに気を付け声を掛け合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	インシデント委員会を定期的に開催し虐待や、危機管理等の対策を話し合い職員会議にて報告、意見交換を行っています。また、毎月のグループ全体会議でも報告を行い情報の共有、客観的な意見ももらっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	定期的に権利擁護を学ぶ場は取っていませんが実践の中で学ぶ機会があり、会議等で共有できるよう心がけています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約・解約の際は一方的な説明にならないよう注意し、十分に納得していただけるよう話し合いを行っております。入居までの期間も電話等質問に柔軟に対応できるように心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍以降機会は減少しております。意見箱を設けていると同時に電話連絡の際にご意見等ないか聞き取るよう心がけています。	来所時や適宜の電話連絡、ケアプラン作成時に家族から意見を確認し、職員で対応の違いが生じている意見にすぐに職員間で周知し修正を行うなど意見の反映に努めている。職員全員が随時、家族に連絡し対応ができるようにしている。利用者の希望に寿司の出前を取るなど実現している。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回代表者と全体会議を開催し各管理職で意見交換を行っています。職員一人ひとりの意見交換の場は改めて設けていないが日々の会話の中で意見が出る事が多く、出た意見を全体会議で話し合いフィードバックするよう心がけています。	毎月の法人会議や職員会議をはじめ、都度必要に応じて管理者に話や相談を行い、日々の会話の中で上がる意見を全体で協議を行うなど職員意見を反映させている。勤務調整や休憩時過ごしやすくするためにリクライニングチェアに変更するなど適宜検討を行い、意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	コロナ禍により代表者との懇親の場は中止となり、話し合いの場はありませんが全体会議の中で管理者が代表し話し合いを行い環境整備に努めています。近年の人手不足、感染対策等で職員の負担が増えているのでさらなる環境整備に努めていきたいと思っています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	人手不足により時間の確保が難しく職員教育が十分とは言えません。今後の課題と思っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	年2回程度同区内でグループホーム勉強会の開催があり参加する事で他事業所の意見を聞き職員会議で反映しております。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に積極的に会話等の場を作るように心がけています。不安等1つでも解決できるよう時間をかけ話し合っております。		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	毎月お写真で様子の報告を行っています。現在面会制限があるためご家族の不安は大きなものだと思っております。少しでも不安が解消できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居後に他サービス、かかりつけ医の継続等の実績があり、現在も必要に応じ柔軟に対応しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	何かを教える、正すと云った立場にならないよう努めています。過ごす期間が長くなり馴れ合いとならないよう会議等で定期的に職員間で共有しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	要望のみの対応とならないよう注意し、話しやすい関係を築けるよう努めています。また、在宅での介護方法、以前の様子等ご家族より教わる事が多くあります。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	病院、美容院等馴染みの深い場所等に対し、出来るだけ引き続き利用して頂くように心がけていますが、現在は病院利用が中心となる事例が多いです。	利用開始時に家族から普段の日常や生活背景をはじめ馴染みや習慣など詳しく聞いて確認している。馴染みの美容院や通院、買い物などが継続できるようにしている他、友人と定期的に連絡を取るなど取り組んでいる。近隣のスーパーの店員とも顔馴染みでの付き合いとなっている。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共通の趣味がある方など職員が間に入り他者との関わりの場を作っています。また、空いた時間も職員が間に入り世間話を囲んでするように心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	特別な機会は設けておりませんが、少数ではありますが地域行事で一緒にする事もあります。ご家族との関係が続いている事もあります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	開設以来のテーマとして取り組んでいます。生活歴等参考にし、常に本人本位を念頭に取り組んでいます。	自宅の生活や習慣を継続した日常生活を意識している。朝は遅めに起きたり、食事時間も対応可能な範囲で個人の生活習慣やその時の様子など利用者の時間軸で考え支援している。日々の関わりから思いを把握し、申し送りノートや通信アプリを活用し全員で共有し支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴、生活スタイル、職歴、性格、趣味等入居前に、ご本人、ご家族、関係機関より情報を頂き個別計画に反映できるよう心がけていますがコロナ禍以降十分とは言えませんが楽しく過ごせるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	訪問看護の訪問や、日に1回のバイタルチェックにて体調管理を行っています。状況によっては主治医、訪問看護と連携しています。		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ご本人、ご家族、関係機関より入居前に情報を頂き、ミーティングにて個別計画の検討をしています。コロナ禍以降、制限が多くありますが日々生活が新しいことを取り入れる事ができるよう努めています。</p>	<p>センター方式によるアセスメントを行い、私の姿と気持ちシートという独自の様式にて利用者の人物像や思いを明確にしている。それをもとに本人、家族に意向を聞きカンファレンスで話し合い介護計画を作成している。その方のできることや役割を大切にできるよう検討がなされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日記録をつけ、介護計画に反映もさせています。また、連絡ノートを使い情報共有に努めています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>具体的な事例はまだありませんが必要に応じ介護保険の枠に捕らわれず柔軟に対応できるように心がけています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>本人に必要な地域資源を把握してるがコロナ禍以降実施できていない事が多くなっています。再開の目処は立っておりません。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時又は随時、施設指定の往診、従来通りのかかりつけ医、近隣の病院と選んでいただいています。</p>	<p>利用開始時に従来通りのかかりつけ医も選べることを説明し選択している。受診は家族の協力を得ながら実施し必要に応じて情報提供も行っている。協力医による2週間毎の訪問診療や随時の連絡体制、訪問看護との連携など、希望をもとに安心して医療が受けれる体制を構築している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護と連携し週1回訪問して頂いています。また、随時の相談にも対応してもらっており、可能な限り利用者の方の不自由がないよう心がけています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、家族、相談員等と連絡を取り話し合いを行っています。必要に応じ、退院前は必ず病院に訪問し、関係者との話し合いの場を設けています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りの実績もあり、入居前と定期的にアンケートに答えていただいています。当事業所内で出来る事の説明を行い、ご本人、ご家族の意向に沿えるよう、柔軟に対応していきたいと思っています。	希望に応じ看取りまで支援を行っている。利用開始時に重度化対応・終末期ケア対応指針にて対応できる範囲を説明し意向を確認している。意向は毎年アンケートを取り、その時々にある思いを確認している。利用者の状態変化に応じ話し合い、主治医からの説明や指示をもとに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	訪問看護と連携し勉強会を開催する事もあります。職員の入れ替わり時に的確に行えていない部分もあります。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回避難訓練を行い災害等に関する意識を持ってもらうように努めています。緊急連絡簿にて緊急時の連絡体制は作っていますが、継続的に勉強会や訓練が必要と思っています。	年2回避難訓練を実施し、うち1回は夜間想定にて行っている。ハザードマップ上水害が想定される地域であり、2階への垂直避難を重視し取り組みやBCP(事業継続計画)の作成をしている。備蓄は法人本部より冷凍食材が送られストックしており、水やレトルト食品なども整備を充実させている。	防災において地域や近隣住民との協力関係や体制づくりが十分でない状況がみられます。地域住民との関係作りや協力体制をより深めていき、緊急時や災害など有事の際における協力を相互に果たせる取り組みとなっていくことを期待します。

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉使いは重要課題と認識し指示的、決めつけ、恥をかかすような言葉使いにならないよう職員会議等で周知に努めています。	職員間で言葉遣いについて話をする事が多く、尊厳を意識し失礼のない対応に努めている。職員会議での周知や研修も年間で計画し向上に取り組んでいる。トイレの声掛けを耳元で小声にて行うことや、職員が利用者の行動を決めつけず、自己選択、決定ができる声掛けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	会話の際「～どうですか？」等本人が選択できるような言い方になるよう心がけ、自己決定できるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合のよいように1日が流れていないか、職員の振り返りを大切にしています。主体は誰なのかを意識し日々の業務に取り組めるよう職員教育を行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日々の会話より好みの色、服の好み等理解したり、着替えの際は本人に選んでいただいています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立を一緒に考え、また、調理に関心が強い方は、お誘いし参加して頂いています。当番制ではなく自発性を大切にしています。	利用者と献立を考え3食共に手作りに行っている。利用者のできることを生活に結び付くようそれぞれに活躍できる形に考慮し取り組みに繋げている。毎月の行事では季節にちなんだ料理やおやつ作りなど趣向を凝らした食事や近所のパン屋に買いに行くなど食の楽しみとなっている。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事、水分摂取量の記録を取っており、必要に応じ訪問看護、主治医等に相談しております。不定期ではあるが系列施設の提携先の栄養士に献立指導を受けることもあります。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>食後、口腔ケアをしております。必要に応じて訪問歯科を利用しています。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個別の排泄表を作成し、個人のタイミングにあった誘導を心がけ失敗の減少につながるよう取り組んでいます。夜間は睡眠を優先しオムツ使用の場合もあります。</p>	<p>定時の排泄ケアを行うのではなく、排泄表をもとに個人の排泄パターンを把握し個別のタイミングにて誘導や交換を行っている。利用者のトイレに行きたい様子や行動などのサインを見逃さないようにしている。職員はじっくり見ることへのきっかけとなり観察力の向上にも繋がっている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>食事の工夫や運動に取り組んでおり必要に応じて主治医に相談し指示をもらっています。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>原則午後から入浴して頂いています。出づ来る限り入浴日や時間など指定せず、本人のタイミングで入浴して頂いています。</p>	<p>入浴は午後から週2回入れるよう実施している。午前中入浴など希望があれば可能な限り対応している。入浴時は一人ひとり毎回湯を張り替え入浴剤を使用している。温泉の素では「毎回この温泉に行く」が恒例の会話であり気分も盛り上がり入浴の楽しみとなっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝時間等は設けず、各居室、フロア等で原則自由に過ごしていただいています。個々の生活習慣を大切にストレスにつながらないよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局と連携し薬管理、使用方法等常に相談できる環境が出来ています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	常に生活歴をしっかりと把握し、個人の意欲につながるよう個別ケアを実践しております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在は感染症予防のため自粛しています。	コロナ禍であり感染症対策にもとづき外出も控えめにしている。敷地周辺の散歩や庭で畑や外気浴を行っている。受診の際は家族協力にて行うことで感染症予防に配慮してもらい帰りに食事をして帰るなど可能としている。以前は外食や花見、縮景園の散策、大衆劇場などに出かけていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	紛失防止のため原則金庫で預かるようになっていきます。コロナ禍により外出機会がなくお金に触れる場が現在はありません。		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望があれば電話、携帯電話でのテレビ電話を使っていただいております。持ち込まれる方もおられ話せる環境はできております。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感のある物を飾るようにはしていません。幼稚なものにならないよう配慮しています。	利用者の描かれた絵や書を貼ることが好きである意向を踏まえリビングに飾っている。加湿器を設置し乾燥にも配慮し、感染症対策で適宜換気をしている。庭の季節の花を摘んで小瓶に飾り室内の彩やアクセントになっている。音楽を流すなど居心地よく過ごせるよう様々に工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共同区間内に談話スペースを設け自由に過ごしていただいています。また、仲の良い方は同じテーブルに座っていただき会話の場を作るように努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に使いなれた物を持ちこんでいただくようお願いしています。持ち込む物には制限はつけておらず、場合によってはこちらからお部屋の飾りについて要望させていただくこともあります。	居室はクローゼットが備え付けである。自宅で使い慣れた物、親しみのある物など自由に持参ができ箆笥や仏壇、写真など飾っている。ベッドはレンタルも行えるが自宅から持ち込みも可能としている。利用者それぞれに思い入れのある心地よい空間となるよう環境整備が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	特に特別な工夫はしていないが、家庭と同様の生活用品を使用することによって生活感を感じていただけるよう努めています。		

V アウトカム項目(1階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「普通の生活」を目標とし、買い物、理美容、通院、娯楽、趣味、等地域資源を活用し地域の中で楽しく生活できるよう心がけています。※新型コロナウイルス以前の状態にはまだ戻っておりません。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	買い物等必要に応じ利用者の方と出かけ、地域の方との触れ合いの場を持てるよう心がけておりますが、感染症以降地域とのかかわりが少なくなっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症サポーター養成講座を不定期ではありますが開催し認知症の啓発や支援方法を伝えられるよう努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス以降照会での開催が続いております。感染状況をみながら対面での再会を随時検討しています。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	認知症アドバイザーの活動を通し、定期的に市、区役所の担当の方との活動を行っており協力関係を築いています。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	夜間（17：30以降）は人員減少のため玄関の施錠は行いが、日中は施錠していません。また、定期的に、委員会、勉強会等を通し職員全体で身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	インシデント委員会を定期的開催し虐待や、危機管理等の対策を話し合い職員会議にて報告、意見交換を行っています。また、毎月のグループ全体会議でも報告を行い情報の共有、客観的な意見ももらっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	定期的に権利擁護を学ぶ場は取っていませんが実践の中で学ぶ機会があり、会議等で共有できるよう心がけています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約・解約の際は一方的な説明にならないよう注意し、十分に納得していただけるよう話し合いを行っております。入居までの期間も電話等質問に柔軟に対応するように心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍以降機会は減少しております。意見箱を設けていると同時に電話連絡の際にご意見等ないか聞き取るよう心がけています。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回代表者と全体会議を開催し各管理職で意見交換を行っています。職員1人1人の意見交換の場は改めて設けていないが日々の会話の中で意見が出る事が多く、出た意見を全体会議で話し合いフィードバックするよう心がけています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	コロナ禍により代表者との懇親の場は中止となり、話し合いの場はありませんが全体会議の中で管理者が代表し話し合いを行い環境整備に努めています。近年の人手不足、感染対策等で職員の負担が増えているのでさらなる環境整備に努めてきたいと思っています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	人手不足により時間の確保が難しく職員教育が十分とは言えません。今後の課題と思っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	年2回程度同区内でグループホーム勉強会の開催があり参加する事で他事業所の意見を聞き職員会議で反映しております。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に積極的に会話等の場を作るように心がけています。不安等1つでも解決できるよう時間をかけ話し合っております。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	毎月お写真で様子の報告を行っています。現在面会制限があるためご家族の不安は大きなものだと思っております。少しでも不安が解消できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居後に他サービス、かかりつけ医の継続等の実績があり、現在も必要に応じ柔軟に対応しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	何かを教える、正すと云った立場にならないよう努めています。過ごす期間が長くなり馴れ合いにならないよう会議等で定期的に職員間で共有しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	要望のみの対応とならないよう注意し、話しやすい関係を築けるよう努めています。また、在宅での介護方法、以前の様子等ご家族より教わる事が多くあります。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	病院、美容院等馴染みの深い場所等に対し、出来るだけ引き続き利用して頂くように心がけていますが、現在は病院利用が中心となる事例が多いです。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共通の趣味がある方など職員が間に入り他者との関わり場を作っています。また、空いた時間も職員が間に入り世間話を囲んでするように心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	特別な機会は設けておりませんが、少数ではありますが地域行事で一緒にする事もあり、ご家族との関係が続いている事もあります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	開設以来のテーマとして取り組んでいます。生活歴等参考にし、常に本人本位を念頭に取り組んでいます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴、生活スタイル、職歴、性格、趣味等入居前に、ご本人、ご家族、関係機関より情報を頂き個別計画に反映できるよう心がけていますがコロナ禍以降十分とは言えませんが楽しく過ごせるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	訪問看護の訪問や、日に1回のバイタルチェックにて体調管理を行っており、状況によっては主治医、訪問看護と連携しています。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ご本人、ご家族、関係機関より入居前に情報を頂き、ミーティングにて個別計画の検討をしています。コロナ禍以降、制限が多くありますが日々生活に新しいことを取り入れる事ができるよう努めています。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日記録をつけ、介護計画に反映もさせています。また、連絡ノートを使い情報共有に努めています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>具体的な事例はまだありませんが必要に応じ介護保険の枠に捕らわれず柔軟に対応できるように心がけています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>本人に必要な地域資源を把握してるがコロナ禍以降実施できていない事が多くなっています。再開の目処は立っておりません。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時又は随時、施設指定の往診、従来通りのかかりつけ医、近隣の病院と選んでいただいています。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護と連携し週1階訪問して頂いています。また、随時の相談にも対応してもらっており。可能な限り利用者の方の不自由がないよう心がけています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、家族、相談員等と連絡を取り話し合いを行っています。必要に応じ、退院前は必ず病院に訪問し、関係者との話し合いの場を設けています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りの実績もあり、入居前と定期的にアンケートに答えていただいています。当事業所内で出来る事の説明を行い、ご本人、ご家族の意向に沿えるよう、柔軟に対応していきたいと思っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	訪問看護と連携し勉強会を開催する事もありますが、職員の入れ替わり時に的確に行えていない部分もあります。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回避難訓練を行い災害等に関する意識を持ってもらうように努めています。緊急連絡簿にて緊急時の連絡体制は作っていますが、継続的に勉強会や訓練が必要と思っています。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉使いは重要課題と認識し指示的、決めつけ、恥をかかすような言葉使いにならないよう職員会議等で周知に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	会話の際「～どうですか？」等本人が選択できるような言い方になるよう心がけ、自己決定できるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合のよいように1日が流れていないか、職員の振り返りを大切にしています。主体は誰なのかを意識し日々の業務に取り組めるよう職員教育を行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日々の会話より好みの色、服の好み等理解したり、着替えの際は本人に選んでいただいています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立を一緒に考え、また、調理に関心が強い方は、お誘いし参加して頂いています。当番制ではなく自発性を大切にしています。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事、水分摂取量の記録を取っており、必要に応じ訪問看護、主治医等に相談しております。不定期ではあるが系列施設の提携先の栄養士に献立指導を受けることもあります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後、口腔ケアをしております。必要に応じて訪問歯科を利用しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個別の排泄表を作成し、個人のタイミングにあった誘導を心がけ失敗の減少につながるよう取り組んでいます。夜間は睡眠を優先しオムツ使用の場合もあります。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事の工夫や運動に取り組んでおり必要に応じて主治医に相談し指示をもらっています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	原則午後からの入浴して頂いています。出来る限り入浴日や時間など指定せず、ご本人のタイミングで入浴して頂いています。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝時間等は設けず、各居室、フロア等で原則自由に過ごしていただいています。個々の生活習慣を大切にストレスにつながらないよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局と連携し薬管理、使用方法等常に相談できる環境が出来ています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	常に生活歴をしっかりと把握し、個人の意欲につながるよう個別ケアを実践してきております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在は感染症予防のため自粛しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	紛失防止のため原則金庫で預かるようになっていました。コロナ禍により外出機会がなくお金に触れる場が現在ありません。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望があれば電話、携帯電話でのテレビ電話を使っていただいております。持ち込まれる方もおられ話せる環境はできております。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感のある物を飾るようにはしています。幼稚なものにならないよう配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共同区間内に談話スペースを設け自由に過ごしていただいています。また、仲の良い方は同じテーブルに座っていただき会話の場を作るように努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に使いなれた物を持ちこんでいただくようお願いしています。持ち込む物には制限はつけておらず、場合によってはこちらからお部屋の飾りについて要望させていただくこともあります。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	特に特別な工夫はしていないが、家庭と同様の生活品を使用することによって生活感を感じていただけるよう努めています。		

V アウトカム項目(2階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム海老園はなみずき

作成日 令和6年4月2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策として地域や近隣住民との協力体制作りが不十分である。	地域住民と緊急時に協力しあえる関係作り。	近隣住民に当施設での避難訓練等の日時をお知らせし、可能であれば参加していただく。	1年
2	35	地域がら活動が活発ではないので、まずはより良い関係作りが課題である。	可能な範囲ではあるが、出来るだけ地域行事に参加する。	町内会の活動を知り出来る限り参加する中で、顔なじみになり、地域の連携につなげてゆく。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。